2007 東洋大学図書館ニュース・コスモス

KOSMOS

■副館長挨拶……2
■読書の楽しみ……3
■井上円了と『東洋哲学』……4
■学生時代に読んで欲しい一冊……6
■平成18年度図書館所蔵資料展報告……7
■お知らせ……8

http://www.toyo.ac.jp/libra/ NO.148

Copyright©Toyo University Library, 2006 All Rights Reserved

副　館　長　挨　拶

東洋大学附属図書館　副館長（白山図書館）

無限の知を活用しよう

森　公章
（もり　きみゆき）
文学部教授

高校までとは異なり、大学での勉強、また今後の皆さんの人生には決められた範囲はありません。大学では講義・演習以外に、自分で物事を調べる鍛錬が必要です。その際に利用していただきたいのが図書館です。白山図書館には80万冊の蔵書があり、大学全体では120万冊以上の蔵書数になります。電子ジャーナルやデータベースも利用可能です。これは無尽蔵の知と言えるでしょう。体力と美貌は年々衰えますが、加齢に負けない知力を磨き、希望の道を切り開いていく上で、その手助けとなるような図書館の充実に努力したいと思います。

東洋大学附属図書館　副館長（朝霞図書館）

図書館運営のソフト面の充実をめざして

大迫　正文
（おおさこ　まさふみ）
ライフデザイン学部教授

朝霞図書館がライフデザイン学部とともに歩み始めてから、早いもので2年が経ちました。この間に、白山図書館への移転作業の残務やコンピュータシステムの変更などがあり、朝霞図書館内のレイアウトにも多少の変更がありましたが、それも昨年度でほぼ完了し、図書館のハード面の整備は一段落しました。今後は、朝霞キャンパスや地域に根ざした図書館運営を目標に、ライフデザイン学関連の収書に一層力を注ぐとともに、利用者への広報活動や、各種サービスに利用者の声が反映できるようなシステム（ソフト）面の充実を図ってまいります。

東洋大学附属図書館　副館長（川越図書館）

時代に対応した図書館機能の再検討

井内　徹
（いうち　とおる）
工学部教授

40年以上前ですが、私は皆さんと同じ大学生でした。そのころ「学生時代」という歌が流行っていました。“♪秋の日の　図書館の　ノートとインクの匂い　枯れ葉の散る窓辺　学生時代♪”。歌手ペギー葉山さんの豊かな音声と甘い感傷的なメロディに酔っていました（今もそうですが）。現代はGoogle（グーグル）という検索システムによって、自宅でパソコンインターネットを通じて世界中の情報を一瞬のうちにかき集めることができる恐ろしい時代になりました。それでは一体大学の図書館の役割は何なのか、学生の皆さんと一緒に考えたいと思います。

東洋大学附属図書館　副館長（板倉図書館）

図書館は知の宝庫、そして癒しの空間

河合　良夫
（かわい　よしお）
生命科学部教授

この四月から副館長として板倉図書館を担当することになりました。他キャンパスの学生や教職員の多くの方々には馴染みが薄いかも知れませんが、板倉図書館は、開設当初から地域開放型図書館としてその役割を果たしつつ蔵書の拡充等に努めながら成長を続け、無事十一年目を迎えました。文系と理系の学部を併せ持つキャンパスの図書館として、板倉図書館は他キャンパスの図書館とはやや性格を異にしますが、これからも利用者の視点を可能な限り大切にし、より利用しやすい図書館の構築を目指すつもりですので、どうか宜しくお願い致します。

Copyright©Toyo University Library, 2007 All Rights Reserved

読書の楽しみ

工学部教授　鳥谷部　達

私の子供の頃はテレビもまだなく知的好奇心を満たしてくれるものは読書だけでした。

私も小、中学校のときは物語や小説が主でしたがむさぼるように読んだ覚えがあります。今は、テレビをはじめさまざまなものから情報が入るため読書の比重が軽くなってしまったように感じます。私は今も読書を楽しんでいるので、その一端を紹介し皆さんに読書をお勧めしたいと思います。

最近、読んで非常に面白かったのは塩野七生さんの『ローマ人の物語』（新潮社）全15巻です。塩野さんは15年かけて、毎年12月に一巻ずつ出版され、昨年ついに15巻を完了されました。私は数年前から12月に本が出るとすぐに買って読み、次の年を楽しみにしてきました。ローマが紀元前753年に建国され西暦476年に西ローマ帝国が滅びるまでの1200年の物語で、カルタゴのハンニバルとの16年にわたる戦い、ローマ随一の天才ユリウス・カエサルによる帝政の開始、五賢帝の時代の「パクス・ロマーナ」の最盛期、あるいは帝国内にはりめぐらされたローマの街道、延々とひかれた水道などまことに興味の尽きない事柄満載の本です。西暦476年といえば古事記が712年に現れる200年以上も前のことで、日本はまだ神話時代であったことを思うと、それよりはるか昔の多くの偉人たちの言ったこと、なしたことがかくも詳細に後世に伝えられていることは驚きに耐えません。現代は科学技術が高度に発達し、すべてのものが古代よりはるかに進歩したと思いがちでありますが、実は現在にまさる水準の面もあったのではないかと考えさせられます。

鳥谷部　達
（とやべ　とおる）
前工学部分館長
工 学 部 教 授
専門分野：半導体計算工学

私自身なかなか読めないけれど気になるのが中国古来の数多くの書籍（漢籍）です。これも紀元前500年の孔子の論語から始まる、2000年以上にわたる膨大な書物の蓄積があり、深い内容を有し、近世までは日本人に多大な感銘を与えてきたものであります。漢文で書かれたものであり現代人はなかなか読めないため、ほとんどの人からは忘れられているのですが、実はきわめて豊かな世界が広がっているのは確かであります。今読んでいるのは東洋学者の安岡正篤さん（1898-1983）のいろいろな本で、数多くの漢籍についての深い教養をもとに、４，50年前の日本や世界の時局、政局に照らし合わせて古典を解説した面白い講話集です。安岡正篤さんは『人生と陽明学』（PHP文庫）でいっておられるように、時と処を限定されてあわただしい生活をしているわれわれは古典をよむことによりその限定を超越して、無碍の世界に遊ぶことができる。古典はわれわれに無限の楽しみを与えてくれるといっておられますが、真にそうだと思います。

最後に、多くの巻からなる著作は著者が一生の情熱を傾けて書いたものが多く感銘をうけるものが多いと感じます。だいぶ前に読んで、非常に面白かったものとして司馬遼太郎の『街道を行く』朝日文芸文庫で43冊をあげます。

Copyright©Toyo University Library, 2007 All Rights Reserved

井上円了と『東洋哲学』

―東洋学の形成―

文学部教授　山田　利明

創立者
井上円了

19世紀のごく初期、パリのコレージュ・ド・フランスに、ヨーロッパで最初の試みとして中国学の講座が設けられた。その後、19世紀後半のオランダのライデン大学、イギリスのケンブリッジ大学等でも中国学講座が設けられるに至る。ドイツではサンスクリット学や仏教学の研究も行なわれ、1800年代の半ばには、現在でも権威あるサンスクリット語辞典として名高い“Sanskrit-Wörterbuch”が編まれる。また、オランダでは幕末にシーボルトが持ち帰った日本の文物研究が行なわれる。それぞれの研究は、シノロジー（シナ学＝中国学）、インドロジー（印度学）、ジャポノロジー（日本学）として展開されるが、それらはヨーロッパ生まれの異文化研究であった。幕末にライデン大学に留学した西周は、こうしたヨーロッパの学界の動向を目撃していた。

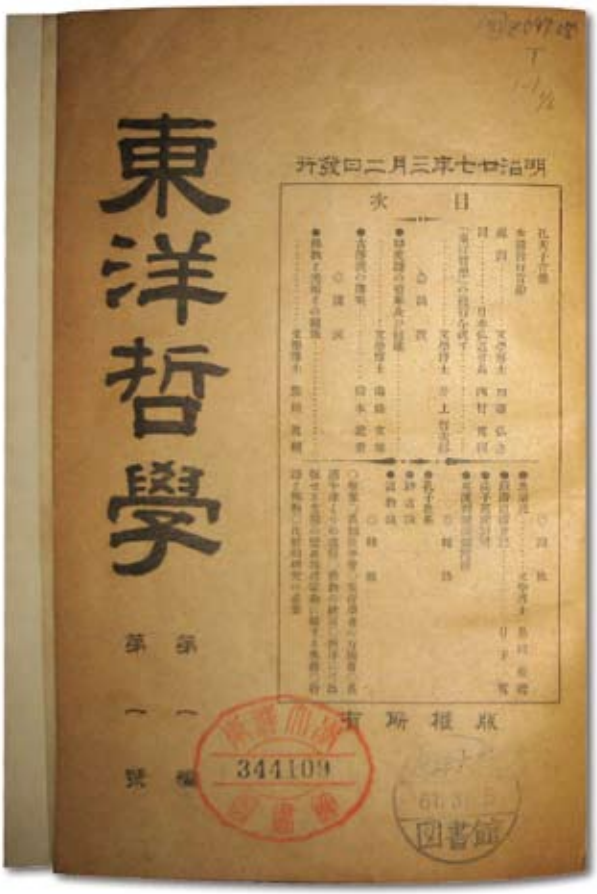
明治10（1877）年、東京大学が開設されたとき、現在の文学部の前身である文科大学には、史学・哲学・政治学と和漢文学科の四学科が置かれた。史学・哲学はいずれも外国人教師が指導に当ったため、西洋史・西洋哲学だけが講義された。もちろん政治学も外国人教師によってヨーロッパの政治学が講じられる。和漢文学科だけが日本人の教師によって運営されたが、その教師は江戸時代以来の国学者・漢学者によって占められたから、内容的には江戸の伝統にもとづく学問であった。

井上円了は、この東京大学哲学科を明治18（1885）年に卒業した。在学中はフェノロサに学んだ。浄土真宗本願寺派の寺に生まれ、宗派の派遣学生として東京大学に入学した。卒業後明治20（1887）年に本学の前身哲学館を創設、哲学の普及を目標とした教育を行なうが、いまその教育課程表をみると、普通科は日本部と西洋部に科目が大別され、日本部は仏学・国学・漢学の三科目、西洋部には論理学や心理学・倫理学・純正哲学などが配され、また科外科目として、人類学や政理学・法理学など最新のヨーロッパの学術が置かれている。日本部の仏学には印度学、国学には日本学、漢学には支那学との但し書きが付けられてはいるが、その内容は東京大学の和漢文学科と同様に江戸の国学漢学と同じであった。要するにこの当時、ことばとしてインドロジー・ジャポノロジー・シノロジーは入っていても、学問そのものが入っていなかったのである。

これとほぼ時を同じくして、明治21（1888）年、ヨーロッパから帰国した鳥尾小弥太は東洋哲学会を創設し、その機関誌『東洋哲学会叢書』に「今日欧州ノ学者ガ称スル所ノオリエンタールフィロソヒート云フハ東洋哲学トモ翻訳スヘキモノ」と記して、この頃すでにヨーロッパでは、仏教や中国・日本の思想を称して東洋哲学と概括していたことを伝えている。

哲学館を創立した直後、井上円了はヨーロッパに旅立つ。そしてその地で見聞したものは、東洋哲学の

Copyright©Toyo University Library, 2007 All Rights Reserved



東洋哲学（東洋大学附属図書館所蔵）

研究が盛んに行なわれていることであった。19世紀末のヨーロッパには、例えば中国学ではフランスのエドゥァール・シャヴンヌ、アンリ・ドレ、イギリスのジェームス・レッグ、ドイツのヴェルヘルム・ショット、仏教学ではフランスのシルヴァン・レヴィなど後に世界的に名を知られる東洋学者が多数存在した。ヨーロッパの東洋学研究は、1900年代初期に第一次の黄金期を迎えるが、その頂点に達する直前の最も活動的な状況を井上円了は見たことになる。それはおそらく鳥尾小弥太の見たヨーロッパ東洋学の状況と殆ど同じものであった。衝撃をうけた鳥尾は、東洋人による東洋哲学研究の構築を志して東洋哲学会を組織したが、哲学館主井上円了も帰国後に哲学館の課程改革を行い、東洋学を主とした教科設定を行った。同時に、『東洋哲学』を創刊して、従来の国学漢学や仏学にとらわれない、新しい東洋哲学研究のあり方を模索する。明治27（1894）年のことである。そして大きな論争へと発展する。

明治30（1897）年、この『東洋哲学』（第4－1号）に、秋水生というペンネームで「支那哲学史研究の必要」という短い論文が載せられる。この論文は、従来の漢学的視点による中国思想の研究ではなく、例えば孔子や老子の思想がどのような社会背景にもとづいて起ったのか、そしてその思想がどのように展開していったのかを明らかにする中国哲学史の構築にあった。そのモデルは、ヨーロッパで行われていた哲学史である。これは当然西洋哲学史。つまり西洋哲学史に比肩し得る中国哲学史の構築である。以後、秋水生は、「漢学研究の方法」（4－4号）などを通して、旧来の漢学を批判し続ける。驚くべき論文は、如実如空のペンネームでの「漢学者を啓発す」（5－3号）という論文である。当時の東京大学和漢文学科教授で二松学舎の創立者三島中洲の学的姿勢を真っ向から批判というよりも、むしろ罵倒に近い論旨をもって批難する。三島中洲は漢学界の重鎮・皇太子（大正天皇）の侍講も勤める。

『東洋哲学』は、こうした峻烈な批判を載せることで、漢学ではない中国哲学研究の途を開こうとしていた。そこには、井上円了がヨーロッパで見たシノロジーのあり方が反映されていたと思える。実際、後に東洋大学の教授となる遠藤隆吉は、『支那哲学史』〔明治33（1900）年〕を著し思想の発達という観点から、中国哲学史を古代哲学・中古哲学・近世哲学の三つに分け、科学的な実証による研究法を確立しようとしている。しかし、問題はあった。井上円了の立場である。『東洋哲学』は東京大学の教授や同窓を主にその寄稿者・支援者としていた。秋水生や如実如空が批判したものは、その東京大学の漢学を頂点としていた学問であったからである。ただ、円了は哲学科の出身であり、和漢文学科の出身ではない。秋水生や如実如空への共感は、円了自身のものでもあったのであろう。

哲学館では、明治30（1897）年頃から支那哲学史が講義されていた。それは京都帝国大学で支那哲学の講座が開設される9年前のことである。

山田　利明
（やまだ　としあき）
文学部教授
専門分野：中国哲学
道教の思想と儀礼

Copyright©Toyo University Library, 2007 All Rights Reserved

学生時代に読んで欲しい一冊　副館長編

微細な分析能力とともに、巨視的観点を持とう

大学では学年進行に伴い、自分の専門に傾倒するあまり、全体が見えなくなるということがよくあります。専門分野の細かな分析能力を磨くのは不可欠の素養ですが、全体の中に自分の学問を位置づけることも重要です。日本は日本人という単一民族が稲作を中心とする農業で国作りを行ってきたという固定観念に対して、本書は日本列島の東・西に生きた人々の生活や文化に見られる差異が歴史にどのような作用を及ぼしてきたかを考察し、考古学・民俗学・人類学等の諸学にも依拠しながら、日本史像を見直そうとした論著です。微細な視点からの反論も可能ですが、日本史全体を一つの視点から見渡そうとした点に本書の魅力があります。国際化の中で、少し異なった切り口で日本の歴史を考えることも必要ではないかと思い、一読を推奨します。

紹介書籍

書　名：『東と西の語る日本の歴史』
著　者：網野　善彦
出版社：講談社（学術文庫）
ISBN：4061593439

森　公章
（もり　きみゆき）
文学部教授
専門分野：日本古代史

ファインマンさんに学ぼう

故ファインマン教授は現代物理学の巨人です。1965年に朝永振一郎、シュウインガーと共にノーベル物理学賞を受賞しています。この本には初恋の人で死の床にあった悪戯好きなアーリーンとの思い出に始まり、若き日のドタバタ劇、親日家の彼が志摩半島を夫婦で旅行し、そこで出会った親切な日本人との心温まる交流、晩年にはスペースシャトル・チャレンジャー号の大爆発事故の調査委員会委員として大活躍しますが、人間関係を含めその様子が生々しく描かれています。翻訳者のすばらしい文章でこの本は痛快に読めます。実は、私には学生諸君がこの本を読むとファインマンに魅力を感じて、名著「ファインマン物理学」（全５巻、岩波書店）を読みたくなるのではないかと、教師としての下心があります。このテキストのページを開く動機に誘導できたら大成功です。

紹介書籍

書　名：『困ります、ファインマンさん』
著　者：リチャード・P・ファインマン
訳　者：大貫　昌子
出版社：岩波書店（岩波現代文庫）
ISBN：4006030290

井内　徹
（いうち　とおる）
工学部教授
専門分野：光計測工学
　　レーザ工学

悩んだときこそ、あきらめず発想の転換を

鎌田　實著「あきらめない」には、究極的な状態とも考えられるガン告知を受けた人が病との共存を覚悟し、自らの生き方を選択しながら病気に立ち向かう様子が描かれています。それを可能にしたのは、「既成概念にとらわれず、患者の全てを受け入れながら、本人の自主性を重視した治療を進めれば、免疫力も高まる。」という信念に基づく著者の治療方針でした。それによって、患者は病気と闘いながらも新たな人生の楽しみ方を見出し、他の病院で告げられた余命をはるかに超えて生き抜いていたことが記されています。

苦境に立たされたとき、物事をポジティブに受け止め、新たな発想で臨むことの重要性がこのことから学び取れます。そのような意味から、本書は多くの壁を乗り越えていかなくてはならない皆さんにお勧めしたい１冊です。

紹介書籍

書　名：『あきらめない』
著　者：鎌田　實
出版社：集英社
ISBN：4087812677

大迫　正文
（おおさこ　まさふみ）
ライフデザイン学部教授
専門分野：解剖学

新しい知見を含め、ヒトについての知識を整理する

「学生に読んで欲しい一冊」を挙げることは相当な難題ですが、宗川吉汪著「誕生・性・遺伝子」（新日本出版社、￥1,700+税）を挙げることにします。学生一般が対象であり、更にはその内容及びレベルが適当であるからです。昨年来、“命”に関わる暗いニュースが続きました。「命を粗末にするな」と言われても理解できないのは基礎知識の整理が出来ていない、あるいは習得そのものが出来ていない為かも知れません。「人間とは何か」というサブタイトルを持つこの本は、「誕生」から始まり「性を語る」、「エイズとセックス」、「脳がタバコを離さない」等、全十一章からなり、読みやすい記述で、生物としての人間の科学的理解の為に書かれています。途中、読者に課せられる各章末の疑似レポートとそれに対する著者によるレポート例も、レポート作成時のよい参考になると思います。

紹介書籍

書　名：『誕生・性・遺伝子』
著　者：宗川吉汪著
出版社：新日本出版社
ISBN：9784406032483

河合　良夫
（かわい　よしお）
生命科学部教授
専門分野：生物物理学
　　分子細胞生物学

Copyright©Toyo University Library, 2007 All Rights Reserved

平成 18 年度図書館所蔵資料展報告

４キャンパス図書館内および井上円了記念博物館において、通常公開していない珍しい貴重な資料を展示し魅力的な所蔵資料展を開催いたしました。

平成19年度においても各図書館にて所蔵資料展を開催いたしますので是非ご覧ください。詳細は、図書館ホームページや館内ポスターにてお知らせいたします。

特　別　展

【白山キャンパス　井上円了記念博物館】

「中古文学関係稀覯図書展」（5月12日～5月26日）
重要文化財指定図書『狭衣』を展示し、落窪、源氏物語、古今和歌集などの貴重な資料も紹介しました。

「百人一首～原典とその展開～」（6月2日～6月25日）
百人一首関連資料を中心に百人一首の写本・奈良絵本・絵巻・歌かるた・浮世絵などを展示しました。

特別展では、学生・教職員や一般の方々の来館者が合わせて2,321名の来場がありました。

企　画　展　・　常　設　展

白山図書館

「和本に見る江戸の枠」（5月９日～７月29日）
「マザーグースの世界に遊ぶ」（8月１日～10月14日）
「歌謡にふれる～日本の伝統芸能、端唄・新内を訪ねて～」
（10月17日～11月４日、11月22日～12月20日）
「アンコール坂口安吾　生誕100年展」
（11月7日～11月21日）
「直筆原稿が語る作者の素顔」（1月10日～3月10日）
「わたし達の東洋大学」（3月13日～5月７日）

川越図書館

「学祖『円了』展　―学祖円了の足跡をたどる―」
（6月５日～6月16日）
「坂口安吾展　―生誕100年　その人と作品―」
（11月27日～12月８日）

朝霞図書館

「環境の創造～人と自然を大切にするデザイン～」
（4月10日～5月29日）
「FOOTBALL～ワールドカップ開催に寄せて～」
（6月１日～7月29日）
「遊戯を楽しむ～福祉レクリエーションの実践～」
（10月２日～11月25日）

板倉図書館

「坂口安吾生誕100年展」（6月19日～6月30日）
「板倉キャンパス開学10周年記念蔵書展」
（10月23日～10月27日）
「館林ゆかりの文学者　田山花袋展」
（12月４日～12月15日）

・ホームカミングデー（白山キャンパス６号館地下１階食堂：11月４日開催）に所蔵資料展として「～東洋大学が生んだ作家　坂口安吾生誕100年展～」を開催いたしました。
・「化け物文化誌展」（国立科学博物館：10月17日～11月12日開催）に本学が特別協力を行ないました。図書館所蔵資料から井上円了著作、妖怪絵巻、哲学堂文庫、等多数の資料を出展いたしました。

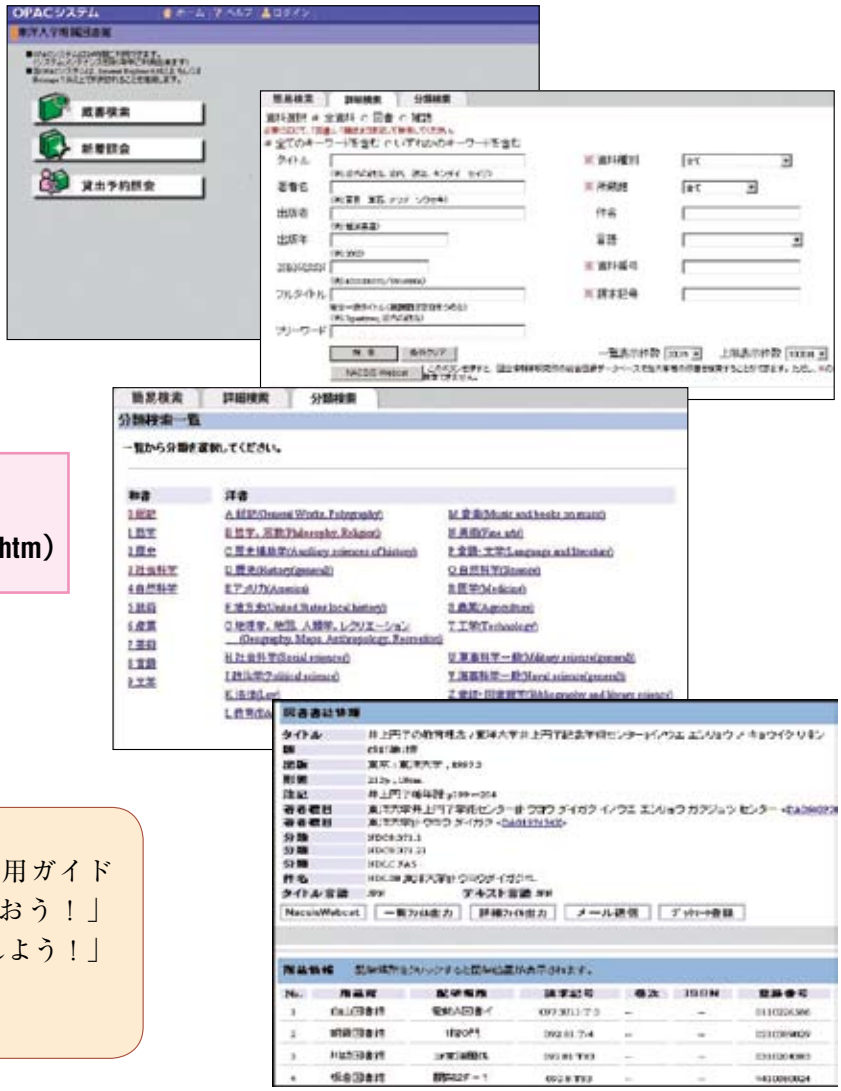
Copyright©Toyo University Library, 2007 All Rights Reserved

OPACリニューアルのお知らせ

2007年4月より、東洋大学附属図書館のOPACがリニューアルしました。

OPAC（オーパック）とは、東洋大学4キャンパスの図書館で所蔵している図書と雑誌を効率良く探すためのWeb検索システムのことです。

詳細検索、簡易検索、分類検索の3つの方法で資料を検索したり、他キャンパス資料を取寄せしたりすることが可能です。



入口は図書館 HP から！
（http://www.toyo.ac.jp/libra/index.htm）

詳しい利用方法は図書館活用ガイド「図書の探し方OPACを使おう！」「OPACを使って図書を予約しよう！」を参照してください。

図書館活用ガイド

図書館では、図書館の上手な使い方を紹介するリーフレット〈図書館活用ガイド〉をご用意しています。

館内での配布以外に、図書館ホームページからもダウンロード可能です。

ぜひご利用ください！

東洋大学図書館ニュース　コスモス2007　No.148　2007年4月1日
編　　集：図書館広報運用部会
発　行　所：東洋大学附属図書館　東京都文京区白山 5-28-20　Tel.03(3945)7315

Copyright©Toyo University Library, 2007 All Rights Reserved